

2019年4～6月

	三重・愛知	全国・海外
4月	<ul style="list-style-type: none"> ● 豪商・三井家の基礎を築いた三井高利ら多くの偉人を輩出した松阪の魅力を発信する「豪商のまち松阪観光交流センター」が開館。(4/5) ● 愛知県岡崎市は2019年度中を目途に、民間事業者と共同出資して、愛知県で初めてとなる地域新電力会社を設立すると発表。(4/17) ● 四日市市は新たな移動手段の1つとして注目される電動キックボードの普及に向けて、シェアリングサービス会社「Luup」と連携協定を締結。(4/18) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 外国人の受け入れ拡大に向けて、新たな在留資格「特定技能」を新設する「改正出入国管理法」が施行。5年間で34.5万人の受け入れを見込む。(4/1) ● 米国で商用としては世界初となるスマホ向け5Gサービスが開始。日本では来春を目途に携帯各社がサービスを開始する予定。(4/5) ● 財務省は紙幣のデザインを2024年度に刷新すると発表。紙幣刷新は2004年以来、20年ぶり。最新の偽造防止技術を反映させるのが主な目的。(4/9)
5月	<ul style="list-style-type: none"> ● 愛知県は中国・広東省と友好提携を結ぶことで合意したと発表。愛知県が友好提携を結ぶのは3地域目で、39年ぶり。(5/13) ● 日本ミシュランタイヤは「ミシュランガイド愛知・岐阜・三重2019特別版」を発売。ミシュランガイドで東海地方を取り上げるのは初めて。(5/17) ● 地域の有形・無形の文化財をテーマでまとめ魅力を発信する日本遺産に、三重県鳥羽・志摩の海女や名古屋市緑区有松の町並みが登録。(5/20) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 元号が平成から令和に代わり、皇太子さまが第126代天皇に即位。天皇が崩御によらず代替わりするのは約200年ぶり。(5/1) ● 5年に一度の欧州議会選挙が開催。親EUのリベラル会派の欧州自由民主同盟(ALDE)などが躍進。今秋に欧州委員長が選出される予定。(5/23～26) ● トランプ米大統領が令和初の国賓として来日。3泊4日滞在し、天皇、皇后両陛下との会見や日米首脳会談を開催。(5/25)
6月	<ul style="list-style-type: none"> ● 三重県は2018年の人口動態統計で、合計特殊出生率の前年からの伸び幅が福井県と並んで全国1位だったと発表。(6/7) ● 愛知県は県体育館を名城公園内に新築移転する基本計画を発表。概算事業費に約300億円を想定。2025年4月の利用開始を目指す。(6/11) ● 国土交通省が公募していた日本版MaaSの実現に向けた推進事業に、三重県から志摩市と菟野町が選定。(6/18) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2020年の東京五輪・パラリンピックの聖火リレーのルート概要が発表。福島県をスタートし、全国857市町村を巡る予定。(6/1) ● 英国のメイ首相が与党・保守党の党首を辞任。EU離脱を3月末までに達成できず、責任をとった形。次期党首が決まる7月末まで首相は継続。(6/7) ● 日本が初めて議長国を務める「G20大阪サミット」が開催。日本が主催する国際会議としては史上最大規模。(6/28～29)

フォーカス

2019年7～9月の予定

	三重・愛知	全国・海外
7月～9月	<ul style="list-style-type: none"> ● 「ベビースターラーメン」をテーマにした工場一体型テーマパーク「おやつタウン」が三重県津市にオープン。(7/20) ● 愛知県常滑市の中部空港島に愛知県国際展示場「アイチ・スカイ・エキスポ」が開業。国際空港直結型の国際会議・展示場は日本初。(8/30) ● セントレアに格安航空会社(LCC)専用のターミナルがオープン。現行のターミナルから徒歩4分の距離に2階建て2棟構成で建築。(9/20) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 2009年7月から続いている米国の景気拡大局面が、これまでの記録である1991年4月から2001年3月の120ヵ月を超え、史上最長となる見通し。(7月) ● 3年に一度の参議院選挙が7月4日に公示、21日に投開票される。前回よりも3議席多い124議席をめぐって争われる。(7/4～21) ● 世界3大スポーツイベントの1つとされる「ラグビー・ワールドカップ」が日本で開催。日本はアジア初の開催国に。(9/20～11/2)

フォーカス

日本版MaaSの実現に向けて三重県から志摩市と菟野町が先行モデルに選定

6月18日、国土交通省が公募していた日本版MaaS(モビリティ・アズ・ア・サービス)の実現に向けた推進事業に、三重県から志摩市と菟野町が選定されました。MaaSとは、さまざまな交通手段をITでつなぎ、多様な移動サービスを提供することを意味し、自動車メーカーなどは自動運転技術と組み合わせたサービスを開発しています。

志摩市では「志摩地域観光型MaaS実証実験」として、利便性を高めて国内外から観光客を呼び込んでいき、また、菟野町では「こものおでかけをMaaSで便利にするプロジェクト」として、免許を返納した高齢者らの交通手段を確保していく方針です。